



肢体不自由の方への支援

身体の動きに関する器官、四肢(上肢:手と腕、下肢:足と脚)や体幹(胴体)に先天あるいは後天的な病や怪我による障害、欠損等があり、日常生活において何らかの姿勢や運動に不自由や困難が生じている状態をいいます。



主な症状と分類

3

各障害別支援例／支援機器／災害時の対応

脳	脳血管障害	脳血管が破れたり詰まったりして、脳損傷が起きた状態。移動機能や手指機能等に困難がある。
	頭部外傷の後遺症	スポーツ・交通事故等で頭部に衝撃を受け、脳損傷が起きた状態。筋がつっぱる痙攣性運動麻痺などの後遺症がある。
	脳性まひ	受胎から新生児期の間に受けた脳損傷の結果、姿勢・運動面に異常をきたしたものをいう。
脊髄・末梢神経	脊髄損傷	事故等によって、脊髄に損傷を受け、損傷部位より下の脊髄機能が失われた状態。腕や足を動かすことや、姿勢を保つことが難しい。
	二分脊椎	胎児期における器官発生障害。主に腰の脊椎の癒合不全の結果、下肢機能が失われた状態。
	シャルコー・マリー・トゥース病	遺伝性の末梢神経疾患。手足などの末端から運動及び感覚神経の機能障害が緩徐に進行する。
	ALS (筋萎縮性側索硬化症)	筋肉を動かせる神経機能が失われ、動いたり、呼吸したりすることができなくなる原因不明の疾患。
筋	筋ジストロフィー	筋そのものが衰え萎縮する疾患。
骨	骨形成不全症	生まれつき骨が著しくもろく、成人まで骨折が多かったりする。
	変形性股関節症	股関節の軟骨がすり減り、関節の可動域制限、筋萎縮による筋力低下、側下肢の短縮、それらにより足をひきずる等の症状がある。
	四肢における欠損・形成不全	先天奇形、指や腕の欠損などがある状態。
	切断	事故等で四肢を切断した状態。



困難なポイントと支援例

感想やレポートを講義の時間内で書き終えることが難しい	・感想やレポートをメール等で後ほど提出
試験の答案用紙や感想シート等の用紙等の狭い箇所への記入	・用紙等の拡大 ・試験時間の延長(1.3-1.5倍)
ノートをとることが困難	・ポイントテイク、ノートテイクの配置
学内の移動が困難	・使用教室の調整 ・バリアフリー環境の整備